

授業改善に向けた教育センターの支援の在り方（2年次）

～「授業づくりの研修」の効果を上げる『授業づくりの研修ハンドブック』の作成～

島根県教育センター

企画・研修スタッフ 共同研究

## 目 次

|     |                              |    |
|-----|------------------------------|----|
| I   | はじめに ～1年次の研究を踏まえて～           | 1  |
| II  | 研究の目的                        | 1  |
| III | 研究の内容                        | 2  |
|     | 1 『授業づくりの研修ハンドブック』作成の基本的な考え方 | 2  |
|     | 2 『授業づくりの研修ハンドブック』の形態        | 2  |
| IV  | 『授業づくりの研修ハンドブック』作成の実際        | 3  |
|     | 1 初任者研修                      | 3  |
|     | 2 教職経験6年目研修                  | 5  |
|     | 3 教職経験11年目研修                 | 9  |
| V   | 研究のまとめ                       | 11 |
| VI  | おわりに                         | 11 |

### 【研究の概要】

1年次の研究（授業改善に向けた教育センターの支援の在り方（1年次）～経験年数に応じた授業力に係る研修を通して～）に続く取組である。

2年目になる本年度は、初任者研修・6年目研修・11年目研修それぞれの「授業づくりの研修」で使用する『授業づくりの研修ハンドブック』作成に取り組んだ。年数回の「授業づくりの研修」を、受講者の授業改善につなげることがねらいである。研修の見通しや振り返りができ次年度の自己課題設定の契機となるハンドブックの作成を目指した。

### 【キーワード】

授業力 「授業づくりの研修」 経験年数に応じた研修 授業改善 省察

※関連研究 「授業改善に向けた教育センターの支援の在り方（2年次）」

- ①「授業づくりの研修」での省察を授業改善につなげるために
- ②「管理職による授業観察リーフレット」の作成

授業改善に向けた教育センターの支援の在り方（2年次）  
～「授業づくりの研修」の効果を上げる『授業づくりの研修ハンドブック』の作成～

島根県教育センター  
企画・研修スタッフ共同研究

## I はじめに ～1年次の研究を踏まえて～

昨年度に取り組んだ本研究（1年次）では、「授業力」に関する教育センター研修の問題点を次の2点に整理し、それぞれに関して改善策（⇒）を示した。

- 経験年数（初任者・6年目・11年目）に応じた研修における「授業力」について、大切にしたい視点及び授業改善に関わる重点項目を明確化・体系化していなかった。
  - ⇒ ・教育センター研修における「授業力」の客観的指標の作成。
  - ・経験年数に応じた研修の中の授業に関わるものを「授業づくりの研修」に名称統一。
  - ・「授業づくりの研修」におけるねらいの明確化（具体化）。
- 授業改善を継続的に意識していくための、指標が確立していなかった。
  - ⇒ ・「授業力に関する自己診断シート」の活用。
  - ・「授業力に関する自己点検シート」の作成。

これらの取組により、研修スタッフが共通の認識を持って、「授業づくりの研修」を進めることができ、一定の成果を上げることができた。しかし、実践の中では、さらなる課題も残った。スタッフ協議や、受講者アンケートから浮かんできたのは、次のような課題である。

- 【課題】
- ・1年間の研修の流れが見えにくい。
  - ・1年に数回の研修で、研修成果が実感しにくい。
  - ・研修資料が散乱する。

2年次の研究に当たっては、1年次の研究結果から浮かんできたこの【課題】を解決するための具体的手立てを考えていくことにした。

## II 研究の目的

上記【課題】解決のためには、各回の研修内容のつながりを明らかにし、受講者が見通しを持って臨めるような工夫が必要である。さらに、受講者が研修を振り返り、成果を実感するためのツールもあった方がよい。各研修で配布した資料が散乱し、振り返りがしにくい現状も改善すべきだと考えた。

そこで、研修前・研修中・研修後、いずれの時点でも受講者が利用できるように、これまでの資料等を整理し「ハンドブック」としてまとめることにした。1年間の研修の流れに沿って資料が整理されていれば、受講者が見通しを持って研修に臨むことができる。また、研修後も実践の参考資料として利用でき、授業改善に生かすこともしやすいのではないかと考えた。

【目的】

受講者が見通しを持って研修に臨み、各自で振り返りをするための『授業づくりの研修ハンドブック』を作成し、「授業づくりの研修」の効果向上を図る。

### Ⅲ 研究の内容

#### 1 『授業づくりの研修ハンドブック』作成の基本的な考え方

『授業づくりの研修ハンドブック』を作成するに当たっては、受講者が研修に見通しを持ちながら主体的に臨み、研修成果を実感できるようにすることを大事にした。教育センターで行う研修に対してあらかじめ見通しを持ちながら、課題意識を持って臨んでほしいと願うとともに、研修の内容を研修の場のみで完結するのではなく、学校に帰ってから生かしてほしいと考えたからである。さらに、研修後もハンドブックを見ることによって、新たな課題の設定をして授業改善を図れるようにしたいと考えた。こうした考えからハンドブック作成の基本方針を次のようにした。

##### (1) 研修の見通しが持てるものにする

研修に使う資料やシート等を研修の順番に並べ、「授業づくりの研修」の初回等で渡す。そうすることで、受講者は、いつごろ、どのような研修が計画されているかを把握することができ、次回の研修までに校内において、自分がどのようなことをしていけないといけないのかも分かる。「授業づくりの研修」を教育センターでの研修だけに終わらせず、その前後のつながりが見えることで、より主体的に教育センター研修や校内研修に取り組むことができる考える。

##### (2) 課題の設定ができるものにする

「授業づくりの研修」の初回には、経験年数に応じた研修のねらいを確認することで、自分の受講する研修のねらいに対する意識を高めるとともに、それまでの自分の授業づくりについて見つめ直し、自分の持つ強みや弱みを明らかにする。併せて、研修のねらいと自分の授業づくりについて照らし合わせて課題にも気づき、研修を通して何を学び、どのように授業づくりをしたらよいのかという課題も設定する。研修開始段階での授業づくりについての課題を明らかにし、その課題解決を目標とすることで、前向きな気持ちで研修に臨めると考える。

##### (3) 研修を振り返ることができるものにする

「授業づくりの研修」の初回に明らかにした課題について、最後に振り返ることで、自分の1年間の研修の成果が実感できるとともに、次年度以降の新たな課題も浮かび上がらせる。そうすることで次年度以降も授業づくりについて、課題意識を持って意欲的に自己研修を行うことができる考える。また、研修の成果物がまとめてあるので、必要な時にいつでも手に取り、振り返ることを期待できる。

##### (4) 経験年数に応じた「授業づくりの研修」に合わせたものにする

経験年数に応じた「授業づくりの研修」では、研修のねらいや実施方法は異なる。そこでそれぞれの研修において使うハンドブックの内容もねらい等に応じたものにする。校内研修と関連付けられるようにしたり、経験年数に応じた授業力の視点に迫るようなシートを入れたり、自分の課題研究と日々の授業実践について年間を通じて関連付けられるようにしたりすることで、受講者が主体的に研修に臨み、成果を実感できるものとする。

#### 2 『授業づくりの研修ハンドブック』の形態

「授業づくりの研修」で使用するのは、「全校種に共通する資料」と「校種・教科で異なる

資料」に分けられる。そこで、ハンドブックは冊子ではなく透明ファイル形式にし、各自が必要な資料だけを差し込むことができるようにした。【写真 1】

まず、第Ⅰ回研修において受講者に「全校種に共通する資料」を差し込んだファイルを配付する。その後、各回の研修で「校種・教科で異なる資料」を配付し、受講者が各自で差し込んでいく。課題レポート作成において受講者自身が作成したもの、個人で利用した資料も差し込むことができる。これらの作業により、1年後にはオリジナルハンドブックが完成することになる。

## 【写真 1】

授業づくりの研修ハンドブック



以上のような考え方・形態によって作成した初任者研修、教職経験 6 年目研修、教職経験 11 年目研修のそれぞれの『授業づくりの研修ハンドブック』について、次からまとめている。

## Ⅳ 『授業づくりの研修ハンドブック』作成の実際

### 1 初任者研修

#### (1) 平成 25 年度「授業づくりの研修」の概要

平成 25 年度の教育センター研修における「授業づくりの研修」は、下記のとおり実施された。

| 校種              | 回            | 内容          |                                       | 使用する主なシート                         |
|-----------------|--------------|-------------|---------------------------------------|-----------------------------------|
| 小学校             | 第Ⅲ回<br>(8 月) | 1 日目        | ・児童生徒を主体とした授業づくりの基本<br>・模擬授業による授業研究   | ・自主研修シート<br>・振り返りシート<br>・研修まとめシート |
| 中・高等学校          | 第Ⅳ回<br>(9 月) | 1 日目<br>校種別 | ・児童生徒を主体とした授業づくりの基本<br>・模擬授業による授業研究   |                                   |
| 特別支援学校<br>(希望者) |              | 2 日目<br>教科別 | ・教科教育の在り方<br>・教科指導の実際<br>・教科指導上の課題と工夫 |                                   |

この「授業づくりの研修」におけるねらいは、「授業の目標を踏まえ、児童生徒等を主体とした授業ができる」である。教育センター研修の流れは次のようにまとめることができる。

#### ① 第Ⅰ回（全校種共通）

「授業づくりの研修」について概要を理解する。

#### ② 第Ⅱ回（全校種共通）

「授業づくりの研修」で扱う模擬授業について理解する。

#### ③ 第Ⅲ回（小学校）、第Ⅳ回（中学校・高等学校・特別支援学校）

ア 講義を通して、よい授業とはどのような授業かを考える。

イ 模擬授業を実施する。

ウ グループ協議を通して、「ねらいが明確な授業」と「児童生徒を主体とした授業」の

ために大切にしたい学習活動や教師の手立てについて考える。

エ 全体会でグループ協議の内容を共有し、各自が今後の実践に向けてどう取り組むか具体的に考える。

④ 第Ⅲ回・第Ⅳ回・第Ⅵ回（小学校）、第Ⅳ回（中学校・高等学校・特別支援学校）

ア 小学校の教諭は、各回の研修において、各教科の授業づくり、教科指導の実際について、講義・演習を通して学ぶ。

イ 中学校・高等学校・特別支援学校の教諭は、第Ⅳ回の２日目に、講義・演習を通して、各教科の目標、各教科の目標を踏まえた学習指導案作成の意義、これまでの成果と課題を踏まえた授業改善について研修する。

（２）ハンドブック作成に当たって留意したこと

過年度の実践から、初任者研修の「授業づくりの研修」の課題としては、「研修のねらいや流れを初任者が知るのは、この研修が行われる当日であり、初任者が見通しを持って研修に臨んだり、研修の振り返りをしたりすることが不十分である」ことや、「校内における研修等との有機的関連に欠けている」ことが挙げられる。そこで、『授業づくりの研修ハンドブック』の作成に当たっては、次の改善策を講じることにした。

改善策

- ① 初任者に対して、研修のねらいと流れを事前に周知し、振り返りも充実させる。
- ② 校内における研修等と有機的関連を持たせる。

① 研修のねらいと流れの事前周知と振り返りの充実

ア ねらいの明確化

「授業力向上のイメージ図」と「経験年数に応じた研修（教育センター研修）において大切にしたい『授業力』の視点」を掲載し、初任者研修における「授業づくりの研修」のねらいを明確化し、事前に周知するようにした。

イ 研修の流れの可視化

『授業づくりの研修』年間計画」を掲載したほか、『授業づくりの研修』で扱う模擬授業について「模擬授業・協議の進め方について」を掲載することにより、事前に研修の流れをイメージした上で研修に臨めるようにした。模擬授業後には、振り返りのため【図１】を使用することにした。

【図１】振り返りシート

| 振り返りシート                                |                 | 名前                                      |
|----------------------------------------|-----------------|-----------------------------------------|
| ねらいが明確な授業づくり                           | 児童生徒を主体とした授業づくり | その他                                     |
| 問題点                                    | 良い点             | 自分はこんな授業を目指したい<br>児童生徒の姿<br>そのための具体的手立て |
| この問題点の原因は何だと思いますか。特に改善に取り組みたい問題点は何ですか。 |                 |                                         |

#### ウ 準備と振り返り

その場限りの研修にならないように、事前準備のための「自主研修シート」と研修後に振り返りをするための『授業づくりの研修』まとめシート」を掲載した。

### ② 校内における研修等との有機的関連

#### ア 校内における研修との有機的関連

初任者研修の校内における研修では、初任者は自らが授業を行い指導教員等がその指導に当たる「授業指導による研修（以下「授業研」という。）」が実施されている。この授業研と教育センター研修における「授業づくりの研修」が有機的関連を持って実施されるように、次のようにした。

（ア）初任者が「授業づくりの研修」の2つの視点である「ねらいが明確な授業」「児童生徒を主体とした授業」を日々の授業や授業研でも意識するように、第Ⅰ回教育センター研修で説明するようにした。

（イ）4月の初任者研修第2回連絡協議会で、上記の2つの視点を指導教員にも説明した。

（ウ）自分の授業力について初任者が自己診断をする「授業力に関する自己診断シート（1回目）」を、8月に初任者に記入させ、そのコピーを9月の初任者研修第3回連絡協議会で、各初任者を担当する指導教員に渡し、協議テーマの1つとして取り上げることにした。

（エ）研修の成果や今後の課題について初任者が自己診断をする「授業力に関する自己診断シート（2回目）」を、1月末に初任者に記入させることにした。

#### イ フォローアップ研修との関連

「授業力に関する自己診断シート」や『授業づくりの研修』まとめシート」を、2年目に実施されるフォローアップ研修における「課題研究」の研究主題を設定する際に参考にさせることにした。

## 2 教職経験6年目研修

### （1）平成25年度「授業づくりの研修」の概要

6年目研修「授業づくりの研修」は、下記の内容で年3回実施した。

| 回   | 内容                                                                               | 使用する主なシート                                  |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|
| 第Ⅰ回 | 講義「児童生徒の実態に応じた授業とは」<br>演習 サンプル指導案を使って<br>課題研究の進め方                                | ・学習指導案チェックシート<br>・課題研究・研究構想シート             |
| 第Ⅱ回 | 研究授業・研究協議（各校種・教科ごとに代表<br>1名が授業。他の受講者は参観。）<br>講義「指導と評価の一体化」<br>課題研究レポート（2月提出）中間発表 | ・授業参観シート<br>・研究授業振り返りシート<br>・課題研究プランニングシート |
| 第Ⅲ回 | 「授業づくりの研修」の振り返り                                                                  | ・「授業づくりの研修」振り返りシート                         |



6年目研修「授業づくりの研修」の目標は、「授業の目標を踏まえ、児童生徒等の実態を考慮し、学習過程、指導内容及び方法等を工夫した授業ができる」ようになることである。研修の大きな流れは、次のようにまとめることができる。

① 第Ⅰ回

目標とする「児童生徒の実態に応じた授業」の具体的なイメージをつかみ、自己の課題を意識する。《各自で課題解決のための手立てを考え、自校で実践》

② 第Ⅱ回

研究授業及び研究協議によって、「児童生徒の実態に応じた授業」への理解を深める。  
《実践の継続》

③ 第Ⅲ回

1年間の研修について振り返り、成果と課題を明らかにする。

(2) ハンドブック作成に当たって留意したこと

過年度の実践から、6年目研修「授業づくりの研修」の課題としては、年3回のみの研修でそれぞれの回のつながりが見えにくいことや、「児童生徒の実態に応じた授業」についての理解に個人差があること等が挙げられた。そこで今回の『授業づくりの研修ハンドブック』作成に当たっては、次の改善策を講じることにした。

改善策

① 各回のつながりが明確になるための工夫

⇒研修の流れに沿って資料を整理し、各回をつなぐ新しいシートを作成する。

② 「児童生徒の実態に応じた授業」（6年目研修におけるねらい）について理解を深めるための工夫

⇒研究協議のテーマを焦点化するためのシートを作成する。

① 各回のつながりが明確になるための工夫

⇒授業アンケート例（教師用【図2】・生徒用【図3】）の作成

各回の研修内容のつながりを明確にするために、ハンドブックの中で第Ⅱ回に向けて準備すべきことを明示した。「授業アンケートで実態を把握する」「研究授業の指導案を書く」「課題研究レポート中間発表の準備をする」の3点である。

授業アンケートは同じ質問項目で教師用・生徒用の2つを作成・実施し、結果を比較するという方法で実施する。例えば、「めあてがはっきりしている」という項目で教師自身が「4（そう思う）」を付けたにもかかわらず、生徒の値が「2（あまりそう思わない）」であれば、示しているつもりの授業のめあては、児童生徒には伝わっていないということになる。「授業アンケート（例）」としたのは、児童生徒の実態によって、アンケート項目が変わることが予想されるからである。例を参考に、各受講者がそれぞれのアンケートを作成する。



【図2】授業アンケート例（教師用）

授業アンケート（例）《教師用》（6年目研修用）

現状を自己分析してみましょう。どのような授業をしているでしょうか？児童・生徒にもアンケートを実施し、結果を比較してみましょう。

| 4 そう思う                      | 3 どちらともいえない | 2 あまりそう思わない | 1 全くそう思わない |
|-----------------------------|-------------|-------------|------------|
| ① 私はよい授業にするために勉強している。       | 4           | 3           | 2 1        |
| ② 私は授業のルールをきちんと示し、指導している。   | 4           | 3           | 2 1        |
| ③ 私は児童生徒の実態に応じて授業を組み立てている。  | 4           | 3           | 2 1        |
| ④ 私の授業は、めあて（目標）がはっきりしている。   | 4           | 3           | 2 1        |
| ⑤ 私は分かりやすい発問や指示、説明をしている。    | 4           | 3           | 2 1        |
| ⑥ 私は児童生徒の考えや思いなどを引き出している。   | 4           | 3           | 2 1        |
| ⑦ 私の板書やプリントは分かりやすく、役に立つものだ。 | 4           | 3           | 2 1        |
| ⑧ 私は一人一人の学習状況を把握している。       | 4           | 3           | 2 1        |
| ⑨ 私の評価は分かりやすく、公平なものである。     | 4           | 3           | 2 1        |
| ⑩ 私は授業のまとめや振り返りの時間をとっている。   | 4           | 3           | 2 1        |
| △児童生徒は、意欲的に授業に取り組んでいる。      | 4           | 3           | 2 1        |
| ◎児童生徒は、疑問点を質問などによって解決している。  | 4           | 3           | 2 1        |
| ◎児童生徒は授業の予習や復習をしている。        | 4           | 3           | 2 1        |

【図3】授業アンケート例（生徒用）

授業アンケート（例）《生徒用》（6年目研修用）

年 組 番 氏名

以下の項目について、あてはまると思う数字を一つ選んで記入して下さい。

| 4 そう思う                      | 3 どちらともいえない | 2 あまりそう思わない | 1 全くそう思わない |
|-----------------------------|-------------|-------------|------------|
| ① 先生はよい授業にするために勉強していると思う。   | 4           | 3           | 2 1        |
| ② 先生は授業のルールをきちんと示し、指導している。  | 4           | 3           | 2 1        |
| ③ 先生は自分たちに合わせて授業を組み立てている。   | 4           | 3           | 2 1        |
| ④ 先生の授業は、めあて（目標）が分かりやすい。    | 4           | 3           | 2 1        |
| ⑤ 先生の発問や指示、説明は分かりやすい。       | 4           | 3           | 2 1        |
| ⑥ 先生は自分たちの考えや思いなどを引き出してくれる。 | 4           | 3           | 2 1        |
| ⑦ 先生の板書やプリントは分かりやすく、役に立つ。   | 4           | 3           | 2 1        |
| ⑧ 先生は一人一人の学習状況を確認してくれる。     | 4           | 3           | 2 1        |
| ⑨ 先生の評価は分かりやすく、公平だ。         | 4           | 3           | 2 1        |
| ⑩ 先生は授業のまとめや振り返りの時間を取ってくれる。 | 4           | 3           | 2 1        |
| △私は、意欲的に授業に取り組んでいる。         | 4           | 3           | 2 1        |
| ◎私は、疑問点を質問等によって解決するようにしている。 | 4           | 3           | 2 1        |
| ◎私は、授業の予習や復習をしている。          | 4           | 3           | 2 1        |
| 授業についての感想                   |             |             |            |

②「児童生徒の実態に応じた授業」（6年目研修のねらい）について理解を深めるための工夫  
⇒授業参観シート【図4】・研究授業振り返りシート【図5】の作成

第Ⅰ回の研修で「児童生徒の実態に応じた授業」についての具体的イメージを持った受講者は、それぞれが各自で授業状況や児童生徒の実態を把握し、実践を重ねたはずである。実践の確認の場が、第Ⅱ回研修での研究授業であるといえる。

「研究授業→研究協議」という形の教員研修は、学校現場でもよく行われている。その際の問題としては、参観者がそれぞれの観点で発言するため、研究協議が単なる「感想の言い合い」で終わってしまいがちなことが挙げられよう。その結果、分析も考察もない協議になってしまう。充実した研究協議にするためには、協議の観点（テーマとなるもの）をあらかじめ明確にしておく必要がある。その観点に従って参観者は授業を参観し、授業後に協議を行う。研究授業及び研究協議の目標を焦点化するのである。そのために今回新しく、「授業参観シート」及び「研究授業振り返りシート」を作成し、研修で使用することにした。このシートを使った研修の手順は次項のとおりである。

- 1 研究授業の前に、授業参観シートを配付し、参観の観点や参観のポイントを示しておく。
- 2 研究授業を見ながら授業参観シートに記入していく。参観の観点に関することを記入する。その他のことはメモする程度にとどめておく。
- 3 研究協議の最初に、各人が示された観点に関して「良かった点」「改善すべき点」を付箋に書き込んでいく。示された観点以外の意見はメモを本人に渡す程度とし、研究協議では取りあげない。
- 4 付箋を研究授業振り返りシートに貼り、参加者でグルーピングやラベリングをして一般化する。

【図4】授業参観シート

今回の研究授業の目的は「児童生徒の実態に応じた授業」である。とすると、参加者が授業を見る観点は、「授業内容（指導方法）は児童生徒の実態に応じていたか」であり、研究協議のテーマも必然的に「児童生徒の実態を考慮した授業とはどのようなものか」になる。

これらを使用した研究協議では、参観の観点を明確にしたことにより、論点がずれなかった。受講者は話し合いを通して「児童生徒の実態に応じた授業」のために必要なことを一般化し、まとめることができた。一般化の後、今回の研修での気付きを今後の自分の実践にどう生かすか（「今後取り組みたいこと」）についても話し合った。「今後取り組みたいこと」を話し合うことは、第Ⅲ回「授業づくりの研修」（1年間の振り返り）にもつながった。

#### 授業参観シート

氏名 年 月 日 ( ) 第 回  
年 組 教科 参観者 先生

【お名前】

6年1学期「授業づくりの研修」におけるわらい「授業の目標を踏まえ、児童生徒の実態を考慮し、学習過程、指導内容及び方法を工夫した授業」

【参観のポイント】  
心算算盤・指導内容・及び評価は、授業の目標や児童生徒の実態に応じたものであったか。  
→ 授業の目標に沿った指導内容であったか。  
→ 児童生徒のよいところを生かした学習であったか。  
→ 実践を応用とする児童生徒への学習であったか。

【おメモ】

| 時刻 | 教師の動きかけ | 児童生徒の取り組みの様子 |
|----|---------|--------------|
|    |         |              |

【図5】研究授業振り返りシート

#### 研究授業振り返りシート

「授業の目標を踏まえ、児童生徒の実態を考慮し、学習過程、指導内容及び方法を工夫した授業」

| 目標        | 授業            |
|-----------|---------------|
| 授業者の目標を記入 | 該当クラスの学習実態を記入 |

|                                                                    |                                                          |                              |
|--------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|------------------------------|
| <p>【教師の動きかけ○】</p> <p>【参観者の付箋を貼る】<br/>A 教師の動きかけとして<br/>良かったこと</p>   | <p>【児童生徒の取組○】</p> <p>【参観者の付箋を貼る】<br/>A を受けた児童生徒の取組の姿</p> | <p>左を受けて、児童生徒の取組の姿を記入する。</p> |
| <p>【教師の動きかけ△】</p> <p>【参観者の付箋を貼る】<br/>B 教師の動きかけとして<br/>改善が必要なこと</p> | <p>【児童生徒の取組△】</p> <p>【参観者の付箋を貼る】<br/>B を受けた児童生徒の取組の姿</p> | <p>左を受けて、児童生徒の取組の姿を記入する。</p> |

今後取り組みたいこと

これらの取組により、受講者は「児童生徒の実態に応じた授業」という目的の下、年3回の研修を1つのものとしてとらえやすくなったと思われる。

### 3 教職経験 11 年目研修

#### (1) 平成 25 年度「授業づくりの研修」の概要

11 年目研修「授業づくりの研修」は、下記の内容で年 4 回実施している。

| 回            | 内容                                           | 使用する主なシート                     |
|--------------|----------------------------------------------|-------------------------------|
| 第Ⅰ回<br>(5 月) | オリエンテーション<br>「授業づくりの研修」「課題研究」                | 課題研究・研究構想シート<br>自主研修シート       |
| 第Ⅱ回<br>(6 月) | 講義（教科別）<br>「思考力・判断力・表現力等を育む授業づくり」<br>模擬授業・協議 | 授業改善プランニングシート<br>(模擬授業用)      |
| 第Ⅲ回<br>(8 月) | 課題研究中間発表<br>講義「思考力・判断力・表現力等の評価」              | 課題研究プランニングシート                 |
| 第Ⅳ回<br>(2 月) | 課題研究成果発表<br>「授業づくりの研修」の振り返り                  | 授業改善プランニングシート<br>(1 年間の振り返り用) |

11 年目研修「授業づくりの研修」のねらいは「思考力・判断力・表現力等を育む授業づくりができる」である。そのねらいに向かい研修の流れは次のようにまとめることができる。

#### ① 第Ⅰ回…「授業づくりの研修」の方向性の理解

ア 「授業づくりの研修」のねらいと研修内容を説明し、研修の見通しを持つことができるようにする。

イ 事後に課題研究の研究主題の提出を求め、課題研究を計画的に進められるようにする。

#### ② 第Ⅱ回…「授業づくりの研修」のねらいについて理解深化

講義（教科別）や模擬授業（授業改善プランニングシートの利用・グループ協議）を行い、思考力・判断力・表現力等を育む授業づくりについて理解を深める。そして、研修主題（自己課題）の見直しにつなげる。

#### ③ 第Ⅲ回…課題研究計画の見直し

ア 課題研究中間発表や協議を通して、自己課題を見つめ直し 2 学期の実践への見通しが持てるようにする。

イ 教科別に講義を行い、思考力・判断力・表現力等の評価について理解を深める。

#### ④ 第Ⅳ回…「授業づくりの研修」の振り返り

課題研究成果発表等を通して、「授業づくりの研修」の成果と課題をまとめるとともに、次年度の実践への見通しを持つ。（授業改善プランニングシートの利用）

#### (2) ハンドブック作成に当たって留意したこと

11 年目研修は、年間に 4 回行う教育センター研修について『授業づくりの研修ハンドブック』作成の基本的な考え方』に沿って平成 24 年度から実施している。そのため、多くの受講者は研究主題や研修の成果・課題等について、「授業づくりの研修」のねらいに合った内容を記述することができている。

ハンドブック作成に当たっては、受講者がさらに主体的に取り組み、研修成果を次年度の実践へつなげていくことができるように、次の 2 つの改善策を考えた。

## 改善策

- ① 受講者がより主体的に「授業づくりの研修」に取り組めるように、自主研修を設定したり、自主研修シートを作成したりする。
- ② 「授業づくりの研修」の成果が次年度の授業実践によりつながるように、振り返りの段階で利用する授業改善プランニングシートを改善する。

### ① 自主研修の設定・自主研修シートの作成

「授業づくりの研修」のねらいを受講者が理解し自己課題を設定していく段階において、自分自身でねらいについて調べたり考えたりする時間を設け、研修により主体的に取り組めるようにしたいと考えた。そして、自主研修を促す工夫として自主研修シートを取り入れることにした。

自主研修は、与えられた課題を自分自身の課題ととらえるためのステップと考えている。自分の考えをまとめ、自分の授業を振り返ることで受講の意義が高まるとともに、その後の研修での気付きも広く深いものになるのではないかと考えた。

自主研修シートには、「授業づくりの研修」のねらいについて、これまでの実践から考えていることや自分で調べたこと、同僚に聞いたことなどを書き込めるようにした。そして、それ以降に取り組む課題研究や模擬授業にもつながるように、調べた内容を元に自分の授業を見直した振り返りも書けるようにした。

1年間の研修の柱となる研究主題（自己課題）を明確に持つことが研修の充実につながると考えている。

### ② 授業改善プランニングシートの改善

授業づくりの研修の振り返りでは、まとめ用の授業改善プランニングシート【図6】を使用する。このシートには、課題研究（成果発表）からの学びを書き込む欄や今後挑戦したい課題を書き込む欄、今後の授業実践の具体策を書き込む欄を設け、次年度の授業実践につながる振り返りができるようにした。

【図6】授業改善プランニングシート

| 授業改善プランニングシート（第IV回用）                                            |             | 学校名（ ）                       | 氏名（ ） |
|-----------------------------------------------------------------|-------------|------------------------------|-------|
| ～「思考力・判断力・表現力等を育む授業づくりをめざして」～                                   |             |                              |       |
| 課題研究成果発表から                                                      |             | 来年度挑戦したい課題                   |       |
| 【研究の目的】                                                         |             | 今年の実践の成果・課題等から次の目標を考えてみましょう。 |       |
| 【中間発表からの修正点】                                                    |             |                              |       |
| 【成果と課題】                                                         |             | 来年度の授業づくりの具体策                |       |
|                                                                 |             | 実際に何をやるのがよく分かるように書いてみましょう。   |       |
| 成果は自分の強みとして生かしていきましょう。<br>また、成果や自分の強みを生かすことで課題が解決できないか考えてみましょう。 |             |                              |       |
| 【背景・原因の分析】                                                      | 【具体的なアドバイス】 |                              |       |

このシートが有効に働き、受講者の実践意欲を高めるためには、担当指導主事が次のことを意識して研修を進めることが重要だと考えている。

- ア 受講者自身の課題（研究の目的）は明確になっていたか。
- イ 成果と課題を研究の目的に照らしながら、次の実践の具体策を考えるようにする。
- ウ 具体策は、実際に何をするのかというレベルで書けるようにする。
- エ 具体策は、課題の改善策ということばかりでなく、成果や自分の強み（授業力に関する自己分析シートも活用）を生かすことで課題解決を図るという意識を大切に  
する。

来年度も、ハンドブックを核に授業力の向上及び授業改善の省察力を高める研修としていくとともに、後輩を指導していくというミドルリーダーとしての意識向上も重要な視点として研修を実施していきたい。

## V 研究のまとめ

「授業改善に向けた教育センターの支援の在り方（2年次）」との関連として、『授業づくりの研修ハンドブック』を活用して「授業づくりの研修」の効果を上げることで、省察から自己課題化を図ることができ、積極的な授業改善につながると考え、研究に取り組んだ。

『授業づくりの研修ハンドブック』の作成に当たっては、授業改善というゴールを見据えながら、初任者研修、経験者研修のそれぞれの特性が生かせるよう配慮した。初任者研修では、校内における研修と教育センター研修との有機的関連性を、6年目研修では、シートを利用した生徒児童の実態把握とその活用を、11年目研修では、自己課題や研究主題の設定と次年度への課題確認、実践につなげることを特に意識して作成した。

ハンドブックの使用は、受講者にとって次のような利点があるとまとめられる。

- 1 ハンドブックがあることで『授業づくりの研修』の各回の研修内容や視点がつながり、1年間の研修の流れが確認しやすくなる。
- 2 自分が記入したシートを再読することにより、自己の課題を踏まえた授業改善ができる。
- 3 研修を進めながら研修成果を実感できるオリジナルハンドブックが完成し、研修終了後も、差し込み形式にしてあるためさらに資料をまとめられるなど、時間が経っても活用できる。
- 4 初任者研修・6年目研修・11年目研修のハンドブックの構成を揃えることで、次の経験者研修で「授業づくりの研修」を受講する際に、読み込みやすく、受講生は研修をより深く理解することができる。

教育センターとしては、ハンドブックを作成することで、初任者研修・6年目研修・11年目研修の「授業づくりの研修」における体系的な研修プログラムが構築できたと考えている。さらに、担当指導主事にとっても、「研修の系統的な理解がしやすくなった」、「研修内容についての協議の視点を絞りやすくなったことで共通の理解が深まった」などの効果を確認することができた。

## VI おわりに

昨年度の研究で示したように、「授業づくりの研修」は受講者一人一人が授業改善する力を醸成するためのものである。授業改善の意識付けができ、効果的な実践に結びつくものにしたい。そのためには、担当指導主事間で共通の認識を持ち、研修を運営していく必要がある。昨年度「授業づくりの研修」のねらいを焦点化するために、「授業力の構成要素とその解釈」について担当指

導主事で検討を重ねたように、授業力についての共通の理解を深める時間を確保する必要がある。

今年度は、ハンドブックの作成に取り掛かったのが年度途中からであり、使いきれなかったシートもあった。年間を通したハンドブックの検証については次年度を待つ必要がある。

次年度は、担当指導主事が「授業づくりの研修」について共通の理解をした上で、『授業づくりの研修ハンドブック』を使い研修を進めていく。受講者の授業改善につながるようにハンドブック・各シートを改善していき、研修をより実りあるものにしていきたい。

なお、この研究は企画・研修スタッフの共同研究として行い、執筆は佐貫晃弘、藤原篤、今田寿夫、宮瀧典子、清水峰子、廣瀬卓が行った。

#### 【参考文献等】

- ・名古屋市教育センター『自ら授業力を高める 校内研修マニュアル 平成24年度版』  
（名古屋市教育センター研修部・第一研究室）
- ・神奈川県立総合教育センター  
『小学校初任教師のための授業づくりハンドブック』（平成21年3月）  
『高等学校初任者のための授業づくりガイド 平成25年度版』